

## 科目名

初等教科教育法 国語

### I. 目的

小学校における国語科の指導のあり方に関して、家庭教育にはじまる言葉の学習を学校で思考力・表現力育成の指導に結ぶことに視点をもち、言葉への自覚を深化させ、言葉の果たす役割の自覚化を促していく指導法を身につけることを目的とする

### II. 学修到達目標

- 1) 小学校学習指導要領国語について 国語科の目標・指導内容をその特異性を踏まえて理解すること
- 2) 文章の読解を通して言葉の獲得をさせていく国語科指導のあり方を熟知し指導が出来ること
- 3) 国語科の指導事項を教科書教材と関係付けて指導できる見方・考え方で、目標到達の授業法に結ぶ指導力を身につけること

### III. 小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- 1) 学習指導要領の示している目標・内容を国語科の持つ特異性から理解し発達の系統性を踏まえて理解していること
- 2) 学習者のもつ国語科の差異を熟知し、語彙力・読解力をつけていく授業のあり方を追究する授業ができること
- 3) 学習到達目標を曖昧にしている国語科学習に対する偏った認識を是正する授業が設定でき、思考力表現力を高める指導法を追究していること
- 4) 国語科の指導内容領域に従って、学習者を向上させる評価が出来ること
- 5) 指導者の国語科指導への高い見識と技能を身につけていること

### IV. 学修の概要

- ・ 日常言語生活と国語科学修内容の密着性の理解の下に学習指導要領を読み解く学習
- ・ 学習者の言葉獲得の道筋を、人間の発達の側面から理解する学習
- ・ 国語科指導事項と教科書教材との関係を、筆者・作者の意図を汲み取る立場から理解する学習
- ・ 国語科指導目標達成の授業の指導案の立案の学習
- ・ 指導と評価の関連の上立つ 評価法を理解する学習



## 第1講 国語科学習と学習者の理解

### ◆目的

国語科で学ぶ事項は、日常生活に必要な国語が適切に使えるようにしていくことが基本であり、学習者はそれらを6歳までの生活の中でそれぞれに身につけてきているが、個々の国語の定着の実態の差異は大きいこと、また、力に差異のある学習者を集団で円滑に進め高めていくことへの意識の明確化を図る

### ◆学修到達目標

- (1) 学習者の国語学習は生まれ落ちたときから区々にスタートしていることが理解できる
- (2) 国語科の学習内容は日常生活と密着して行われていくことが理解できる
- (3) 国語科における学習者の個人差とは、何かについて 理解できる

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 国語科の基礎は 言葉獲得の学習であることが説明できる
- (2) 言葉の獲得とは 言葉を脳内でのイメージ化との関連で有ることが説明できる

### ◆概要

6歳児の国語の授業教室の様子から、それぞれの児童と言葉の認識の実態について学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 6歳児が「言葉理解の実態」について、その差異の発生要因を、説明しなさい
- (2)

## 第 2・3 講 国語科授業の託されている指導事項を学習指導要領国語の総説から読み解く

### ◆目的

言葉の学習は生活の中に始まるが、生活での言葉の獲得と、国語科指導で果たす言葉の獲得には根本的な相違点があることを理解すること

### ◆学修到達目標

- (1) 学習指導要領国語の 総説の部を読み解き、国語科指導の重点・主旨について授業と関連づけて理解できる
- (2) 国語科の学習内容が3つの資質・能力で示されていることが理解できる

### 中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 学習者の実態を鑑み、国語科授業の改善が求められていることが説明できる
- (2) 国語科における資質・能力の育成を2つの内容構成から果たしていくことについて説明できる

### ◆概要

学習指導要領国語の総説に示していること、児童の国語力の現状と合わせ読み解き、国語科授業でもとめられていることを具体的に把握する

### ◆追究テーマ

- (1) 国語科の内容構成の改善について、2つの能力の育成が、学習者の学習意欲を向上させていくことを具体的に説明しなさい。

## 第4講 国語力の育成と学習指導要領 国語の目標の理解

### ◆目的

国語科の学習指導要領の小・中を通して読み、指導目標目標から、国語科の果たす役割を一貫性ある指導の下に学習をさせていくことを理解する

### ◆学修到達目標

- (1) 学習指導要領国語の 国語科の目標について小・中を通して読み解き、指導の同一点、相違点が理解できる
- (2) 義務教育における国語科の指導のあり方を明確化して理解することができる

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 人間の成長と言葉の獲得の視点から、家庭での言葉の獲得と学校授業での言葉の獲得の相違点を明確に理解し、国語科授業で果たす役割が説明できる
- (2) 国語科授業の指導法について、発達に即して深化させていく指導の必要性が説明できる

### ◆概要

「学習指導要領 国語」の指導目標を、小・中学校通して比較した読み解きをして、国語科の指導目標から他教科との特異性を学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 「日常生活に必要な国語」と「社会生活に必要な国語」の表記から、学習者の生活の広がりをつかみ、言葉と生活の密着性を下に 言葉の範囲と進展について説明しなさい、
- (2)

## 第5講 国語力の育成と学習指導要領国語 内容の理解

### ◆目的

「学習指導要領 国語」が示す 資質・能力の育成について、国語科指導の立場から理解する学びをする

### ◆学修到達目標

- (1) 国語科授業での「言葉の獲得」が学習者の「資質・能力」の育成に資する指導となるには、授業中での言語活動が適切に展開されることであることと理解できる
- (2) 国語の時間での、言語活動と学習者の学習事項との関連を理解する

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 言語活動を通して行われる国語の授業から、それぞれの活動から獲得出来る言葉の力は「考えの形成」につながることを説明できる
- (2) 言語活動と思考力・表現力の育成との関係が説明できる

### ◆概要

「学習指導要領 国語」の内容構成の読みとりを通し、国語科の3つの指導領域との関係づけ、思考力や表現力に至ることをと学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 国語科の授業でのそれぞれの活動内容と、身につけてさせる力、思考力・表現力と関係づけて説明しなさい。
- (2)

## 第6講 国語科学習者と言葉の発達の過程の理解

### ◆目的

学習者の言葉の獲得は、0歳から始まっていること、学習対象者の言葉の環境の差異について理解を深める学びをする

### ◆学修到達目標

- (1) 国語の授業を行っていく対象者のそれぞれの言語環境の違いと言葉の理解の差異について基本的な理解ができる
- (2) 言葉の獲得は、本人の感性や生活との深い関係があることを理解できる

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 国語科の指導と学習者の言葉の個人差について、「生活環境と言葉」と言葉への感覚とを関係づけた捉えからの説明ができる。
- (2) 学習者個々の持つ言葉の力について、思考力・表現力と関係づけた見方ができる

### ◆概要

学習者個々の言葉は、本人の感性とその生活環境から身につけてきていることを理解し、国語科授業では、言葉を広げ・深めていく授業として指導することであることを学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 児童が日常に使っている言葉を国語の授業を通して、言葉の意味や使い方を拡散していく指導の仕方を事例を挙げて説明しなさい。
- (2) 伝え合う言葉の使い方について、相手の応答を誘う言葉のやりとりの方策を説明しなさい

## 第7講 国語科指導内容 と教科書の教材は 「問い」 から始める

### ◆目的

教科書の教材について、授業者が、指導事項との関連の上に立ち、指導意識を深める見方・考え方を働かせる「問い」が必要であることを学ぶ

### ◆学修到達目標

- (1) 指導事項を教材を使って指導していくに当たり、その教材への見方・考え方が意識づく 教材への「問い」を立てる必要性が理解できる
- (2) 「問い」と教材観と「授業計画」との関連が理解できる

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 計画的に指導事項を踏まえて編纂されている教科書教材に関して、通年の配列と系統性、6年間を通した系統性を踏まえ 教材指導の「問い」を見通しを持って立てることができる
- (2) 指導者の「問い」の明確さが、児童の学習への意欲を生み、確実な力をつける授業につながることを説明できる

### ◆概要

教科書の教材を使って国語力を確かに身につけさせる国語の授業設定にあたり、教師の持つ教材観が授業目標の的確な設定になり、明確な学習展開がなされることへの認識を深める学びをする

### ◆追究テーマ

- (1) 教材への「問い」と教材観と授業展開の深い関連について説明しなさい。
- (2) 教材を使って指導するとき「教材観」に求められる記載事項について、説明しなさい

## 第8・9講 国語科指導内容 思考力・判断力・表現力等の指導法 読むこと

### ◆目的

指導目標、思考力・表現力の育成に資する「読むこと」の授業設定のし方を学ぶ

### ◆学修到達目標

- (1) 教材「物語の文章」を読む学習を通して、言葉への知識・技能を増幅させ、文章読解の力を身につけさせる国語科授業の指導法を理解する
- (2) 「物語の文章」の学習を通して、読解力を身につけさせる授業過程が理解できる

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 「読むこと」の指導について、文種による読みとり事項の違いを踏まえ、言葉をとらえて的確に読み取らせていく授業展開の仕方が説明できる
- (2) 表現されている言葉から、心情を的確に読み取れることを伝え合いの活動を通して身につけさせる指導の仕方について説明できる
- (3) 文種の違いによる読解指導の仕方について、読解力を高める視点から説明できる

### ◆概要

文種による読みとりの方法の違いを理解し、「物語の文章」の読みとりの指導法を、明解な指導目標の設定、言語活動を位置づけた学習過程の下に、指導案の作成を学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 読むことの教材を取り上げ、物語の文章を読み取らせていくときの学習指導案を作成をしなさい
- (2)

## 第10講 国語科指導内容 思考力・判断力・表現力等の指導法 読むこと2

### ◆目的

思考力・表現力の育成に資する「読むこと」の授業設定のし方を学ぶ

### ◆学修到達目標

- (1) 教材「説明の文章」を読む学習を通して、言葉への知識・技能を増幅させ、文章読解の力を身につけさせる国語科授業の指導法が理解できる
- (2) 「説明の文章」の読みとりの力をつける授業過程が理解できる

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 説明の文章を読むことの意義の理解ができ、文章を正確に読み取らせる授業法の説明ができる
- (2) 授業における言語活動の意義が説明でき、「読むこと」の学習と思考力・表現力の育成との関係が説明できる

### ◆概要

「読むこと」に関する教材の指導法について、明解な教材観の下に、指導目標り設定とその指導過程とを学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 教科書教材「読むこと」に関して、説明文を読む学習の、指導案の立案をしなさい
- (2)

## 第11講 国語科指導内容 思考力・判断力・表現力等の指導法 書くこと

### ◆目的

思考力・表現力の育成に資する「書くこと」の授業設定の方法を学ぶ

### ◆学修到達目標

- (1)、単元としての「書くこと」の指導の仕方が理解できる（読むこと話し合うことの学習活動後の「書くこと」の指導時間もあることも理解する
- (2)「書くこと」の学習が、思考力・表現力を身につけさせるために最も有効となる学習であることを理解し、その指導過程を理解する

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 低学年から簡単な構成を考えて書くことの指導法を理解し、積み上げの指導の必要性とその方法、評価の仕方などについて説明できる
- (2) 書くことの必要感など学習者の目的意識の明確化を図った指導の仕方について説明できる

### ◆概要

内容「書くこと」配当されている指導時間数を、有効に指導できる指導計画の策定など、書くことの指導法について学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 身の周りのこと・ものについて、説明をする文章の書き方 指導法を、低・中・高の段階を踏まえた指導法で説明しなさい
- (2)

## 第12講 国語科指導内容 思考力・判断力・表現力等の指導法 話すこと聞くこと

### ◆目的

思考力・表現力の育成に資する「話すこと聞くこと」の授業設定のし方を学ぶ

### ◆学修到達目標

- (1) 「話すこと聞くこと」の学習活動の仕方について、児童の発達に即して、聞き方を教える活動を入れて 身につけさせる方法が理解できる
- (2) 対話的で深い学びに至る 「話すこと聞くこと」の活動のさせ方を理解する

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 「話すこと聞くこと」の言語活動が、思考力・表現力の育成の基盤となることや、相互に呼応し合う話し合いのについて説明できる
- (2) 「話すこと聞くこと」活動から、言葉認識の浅深を理解し、人間理解の学級づくりの基盤に及んで説明できる

### ◆概要

伝え合いのできる集団形成の必要性を理解し、実地に話し合う活動の授業手順について学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 今よりもっと学習しやすい教室環境にしていくために改善点を見つけ、みんなの総意の下で取り組んで行く「話し合い活動のさせ方」の活動案を作りなさい。
- (2)
- (2)

## 第13講 国語科指導内容 「知識及び技能」に関する指導法

### ◆目的

国語の授業で身につけさせる「知識・技能」について、指導要領で示す位置づけ方を理解し、思考力・表現力を高めていく知識・技能として指導していくことを学ぶ

### ◆学修到達目標

- (1) 指導要領に示されている「知識・技能」の内容の理解ができ、国語科の3つの領域の学習を通して指導することと、指導時間を設定して指導する「我が国の言語文化に関する事項」とがあり、それらの指導目標・指導法を想定することができる
- (2) 書写指導目標と指導法の概要が理解できる
- (3) 古典と称している言語文化について、指導目標と授業展開の概要が理解できる

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 国語科の主たる指導目標を思考力・表現力の育成に立脚し、国語科の知識・技能は「深い学び」を支える事項としてとらえ、その指導法を説明できる
- (2) 情報の扱いに関する指導法、古典の学習の指導目標等について説明できる

### ◆概要

学習指導要領 国語の内容「知識及び技能」の指導内容について理解をする学びを行う

### ◆追究テーマ

- (1) 国語科指導要領の内容 「知識・技能」で示していることがらについて、その指導の実際を「書写」について説明しなさい
- (2) 伝統的な言語文化の教材の指導法について、教材を取り上げ 指導案を立案しなさい
- (2)

## 第14講 国語の意欲・関心を高める学習評価

### ◆目的

国語科で身につけさせていく6つの観点からの評価の仕方について理解し、指導のあり方の見直し、指導の充実を図る学習評価の仕方を学ぶ

### ◆学修到達目標

- (1) 国語科における資質・能力の育成を目指し、て「目標に準拠した評価」を行うこと  
の理解ができる
- (2) 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価  
することが理解できる

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 三つの観点からの評価を行うことで、主体的に学習に取り組ませていく場面がより多  
く設定されていく必要があることが説明できる
- (2) 学習評価を通じて、指導の見直しや個に応じた指導の充実を図っていく、PDCAサ  
イクルの指導法について説明できる

### ◆概要

国語科の指導と評価の関係を理解し、指導目標の明確化の下に正確な評価ができ、次の  
学習のコア上につながることを学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 「読むこと」の教材の一つについて、5時間学修計画が終わった時、評価項目を3つの  
観点から、どのように評価するか文章で述べなさい。
- (2)

## 第15講 国語科学習 と学級の教室づくり

### ◆目的

指導事項「話すこと聞くこと」が円滑しかも有効に学習できるためには、日常からの学習集団の醸成が基盤なることを心得、その具体的方策を持って学級づくりに取り組む その方策を学ぶ

### ◆学修到達目標

- (1) 四月の学級集団形成と共に、学び易い学級集団を児童の願いの下で形成していくことの必要性と方策とを理解している
- (2) 対話的深い学びの実現は、学級集団の形成に因り、その方策を授業者と学級成因とで達成出来ることが理解できる

### ◆小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 国語科の学習活動を充実させていくには、基盤となる学級づくりの必要性とそのためには日常の言語環境の構築によることが説明できる
- (2) 言語環境作りが、高次の思考力・表現力を育成することにつながることを説明できる

### ◆概要

言葉の使い方を核に、個々を尊重する学級の言語環境づくりの方策を学ぶ

### ◆追究テーマ

- (1) 4月、編成替えされた学級集団を、国語科学習が円滑にできる学級に創っていくための方策とその取り組み方について述べなさい
- (2)





# 目次

第 1 講 .....	
第 2 講 .....	
第 3 講 .....	
第 4 講 .....	
第 5 講 .....	
第 6 講 .....	
第 7 講 .....	
第 8 講 .....	
第 9 講 .....	
第 10 講 .....	
第 11 講 .....	
第 12 講 .....	
第 13 講 .....	
第 14 講 .....	
第 15 講 .....	



## 第1講

### 【学習到達目標】

- 
- 

### ＜第1講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- 
- 
- 
- 
- 

1.

## 課題

- 
-

## 第2講

### 【学習到達目標】

- ・
- ・

### ＜第2講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

## 課題

- ・
- ・

## 第3講

### 【学習到達目標】

- 
- 

### 〈第3講〉小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- 
- 
- 
- 
- 

1.

## 課題

- 
-

## 第4講

### 【学習到達目標】

- ・
- ・

### ＜第4講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

## 課題

- ・
- ・

## 第5講

### 【学習到達目標】

- ・
- ・

### 〈第5講〉小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

## 課題

- ・
- ・

## 第6講

### 【学習到達目標】

- ・
- ・

### ＜第6講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

## 課題

- ・
- ・

## 第7講

### 【学習到達目標】

- 
- 

### ＜第7講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- 
- 
- 
- 
- 

1.

## 課題

- 
-

## 第8講

### 【学習到達目標】

- ・
- ・

### ＜第8講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

## 課題

- ・
- ・

## 第9講

### 【学習到達目標】

- 
- 

### ＜第9講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- 
- 
- 
- 
- 

1.

## 課題

- 
-

## 第10講

### 【学習到達目標】

- ・
- ・

### ＜第10講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

## 課題

- ・
- ・

## 第 1 1 講

### 【学習到達目標】

- 
- 

### ＜第 11 講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- 
- 
- 
- 
- 

1.

## 課 題

- 
-

## 第12講

### 【学習到達目標】

- ・
- ・

### ＜第12講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

## 課題

- ・
- ・

## 第13講

### 【学習到達目標】

- 
- 

### ＜第13講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- 
- 
- 
- 
- 

1.

## 課題

- 
-

## 第14講

### 【学習到達目標】

- ・
- ・

### ＜第14講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

1.

## 課題

- ・
- ・

## 第15講

### 【学習到達目標】

- 
- 

### ＜第15講＞小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- 
- 
- 
- 
- 

1.

## 課題

- 
-



本テキストは、文部科学省委託事業「令和4年度 現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業」により作成した。

## 科目名

発行日 2022年6月

著者 (岐阜女子大学)

発行所 岐阜女子大学 文化情報研究センター

〒500-8813

岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル4F